令和２年度

◇◆◇　町　民　懇　談　会　◇◆◇

＝ダイジェスト＝

金ケ崎町企画財政課

去る１１月９日から２０日にかけて行いました「町民懇談会」の内容をお知らせします。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。（総参加者数１２３名）

Ⅰ　開催日程　１１月　９日（月）　三ケ尻地区生涯教育センター　【参加者数：１８名】
１１月１２日（木）　街地区生涯教育センター　【参加者数：２５名】
１１月１６日（月）　南方地区生涯教育センター　【参加者数：２１名】
１１月１７日（火）　西部地区生涯教育センター　【参加者数：１５名】
１１月１９日（木）　北部地区生涯教育センター　【参加者数：１９名】
１１月２０日（金）　永岡地区生涯教育センター　【参加者数：２５名】

Ⅱ　時　　間　各会場とも午後６時３０分～

Ⅲ　報　　告

（１）新型コロナウイルス感染症防止対策に係る確定申告会場の変更について

（２）金ケ崎町立幼稚園再編計画の推進に係る方針について

Ⅳ　意見交換

第十一次総合計画（素案）について

主な意見・質問と回答

幼稚園の再編について

【質問】 幼稚園の統廃合もだが、小学校の統廃合問題も早急に検討が必要ではないか。

【回答】 幼稚園児、保育園児が減るということは、やがてその影響は小学校へも及ぶことになります。小学校統廃合に向けた具体的な検討時期は未定ですが、教育委員会と町民の皆さまと一緒に、今後どうあればいいか考えながら進めていかなければならない大きな課題であると認識しています。

総合計画の基本計画について

【意見】 計画にはいろいろと記載されているが、総花的で、住民にとっては身近に感じない。この計画を受けて、どういったことが具体化できたか、できなかったか。そういったところを評価するのが、この町民懇談会ではないか。計画に沿って、ここを整備したとか、こういう事業を実施したとか、そういった報告があると、住民としても意見ができると感じた。

【回答】 これまで、町が実施してきたことが町民の皆さんにうまく伝わってないという反省点がありました。多くの分野や事業があるので、一度に全分野の説明をすることは難しいと思いますが、例えば、来年度の懇談会では、生活環境の分野で、総合計画の基本方針に基づいて、どういった事業を行い、どういう結果だったのかということをお伝えしなければいけないと思って

います。

評価について、今回の総合計画ではそれぞれの施策ごとに目標値を設定することにしています。事業の効果を数字で評価して、その分析をしっかり行い、改善を図っていく必要がありますので、その結果についても、何らかの形で皆さんにお知らせしたいと思います。

総合計画の目標について

【意見】 どういった施策をやることによって、その成果として人口を何人にするというような目標がなければ計画ではないと思う。今後の人口推移を示すだけでは、町がどうありたいのかという姿勢が見えないので、ぜひ具体的な数値目標を設定してほしい。

【回答】 今回の町民懇談会資料では、これまでの人口推移と国立社会保障・人口問題研究所が推計した推計人口をお示ししました。町ではその推計どおりではなく、各種の施策を実行し、転入の増加、出生率の改善等を通じて、人口を維持していきたいと考えております。例えば、転入者を増やす、転出者を抑えることで、現在より年間＋35 人の社会増を目指すという想定です。また、出生率も5年間で 0.01 ポイント上げ、10 年で 0.02 ポイントの増加を目指しています。そうして推計すると、令和7年で 1 万 5,249 人、令和 12 年に 1 万 5,075 人となり、この人口を目標として取り組んでいきたいと考えております。

生活圏ごとの人口減少対策について

【意見】 6つの生活圏ごとに、環境や特徴、今後の人口推移などが大幅に違う。どの地区も一律にではなく、それぞれに合わせたまちづくりが必要ではないか。地域別に振興策を具体的に示して、この地域はこういった政策をやることによって、人口減少・少子高齢化に対応していくといったものを示してほしい。

【回答】 6つの生活圏ごとに環境や産業の特徴があり、人口やその年齢構造が異なる状況になってきています。いかにして人口減少を抑制するか、町全体の政策で取り組むことのほか、地区ごとに取り組むことも必要と考えています。各地域の課題に対して、具体的に相談をして、地域の皆さんと連携して取り組んでいきたいと考えています。

重点プロジェクト（光り輝く若者プロジェクト）

【意見】 重点プロジェクトは、最重要課題である人口減少対策に特化したものとあるが、具体的な取組みは決まっているか。また、それに対する推進体制は設けられているのか。人口減少、少子高齢化が進む中では、経済力のある若い世代をターゲットにする施策を考えてほしい。

【回答】 今後、重点プロジェクトを実際に推進していくための体制づくりも進め、4 月から動けるようにしていきたいと思っております。具体的な取組みについては、今回の町民懇談会でいただいた意見等も反映させ、検討していきます。

また、重点プロジェクトの施策の検討にあたっては、効果的な事業となるように、若者についても、ターゲットとなる年代を絞って検討したいと考えております。一方、重点プロジェクトの元気な地域プロジェクトについては、どの年代でも住みやすいという視点で考えています。

重点プロジェクト（女性応援プロジェクト）について

【意見】 女性にとって魅力的なまちをつくる女性応援プロジェクトの進め方は、男性だけではなく、女性の意見も踏まえて進めていくのでしょうか。男性だけで検討して進めていくというのではなく、しっかり女性の意見を反映させてほしい。

【回答】 検討メンバーには女性も入っていますので、そこで意見をいただいています。今後、具体的な取組みの検討を進めていきますが、その段階でも女性の意見をいただきながら進めていきます。また、今回の基本計画策定にあたり、若者の座談会を開催しました。その場に女性も参加いただき、貴重な意見をいただいていますので、その声を大事にしながら、具体的な取組みを進めていきたいと考えています。

公共交通（田園バス）の運行について

【意見】 10 月にスクールバスとの田園バスの混乗に係る実証運行が行われたが、「バスの運行頻度が減ってしまい、通院や買い物に支障が出る」、「バス停が遠くなり、歩いていくのが大変だった」という声が寄せられている。交通弱者に配慮した運行となるようお願いしたい。

【回答】 免許返納等も進み、交通弱者が増えていくことが予想される中、田園バスの運行の在り方について、検討を進めてきました。10 月の実証運行は、公共交通を充実させていく一つの方法として、スクールバスとの田園バスの混乗という実験を行ったものでした。今後の公共交通、田園バスについては、充実させていく方向で検討を進めていきます。

空き家対策について

【質問】 空き家は、本来個人の財産であり、個人が管理すべきものと思うが、所有者が高齢化して、費用等の面で処分することが難しく、後継者もなかなか動かないということになると、町でも積極的な対応が必要ではないか。今後どのような対策をとっていこうとしているのか。

【回答】 今年度より、国の補助制度を活用して、空き家の除却及び利活用に対する補助制度を始めています。案件が増えていく中、町単独の予算で多くの空き家に対処するのは難しいところですが、これらの補助制度については、国の制度を活用しながら、来年度以降も継続、充実させ、空き家の解体や利活用が進むように支援していきたいと考えております。

ごみ・リサイクルへの対応について

【意見】 外国人も増えてきていることから、地域でも外国人に対して、ごみの出し方を教えることができるよう、主要な言語で簡単な説明ができるチラシ等をつくってほしい。

農地パトロールについて

【意見】 農業委員会が実施している農地パトロールについて、実施した結果どうなったのかが分からない。農地の活用が進むような形で進めてほしい。

【回答】 農業委員会とは、農地パトロールをして終わりではなくて、活用を促進するという前提で進めていきます。地権者、所有者にも、農地の活用を進める必要性をよく理解いただいて取り

組んでいきたいと考えています。

子育て支援センターの整備について

【意見】 町内には子育て支援センターが1カ所しかなく、遠くて行きにくい。小さい子どもと一緒に過ごせる場所が地域ごとにあるといいと思う。他の自治体と比べても子どもの数に対して、子育て支援センターの数が少ないと感じている。永岡幼稚園が閉園するのであれば、閉園後の施設については、子育て支援センターとして活用してほしい。

【回答】 子育て中の皆さんが、安心して気軽に行けるような施設が必要とされていると受け止めています。出産後の精神的な不安、そういった中だからこそ、同じ立場である方々との交流ができるよう、支援策を検討しているところです。永岡幼稚園の閉園後の施設の活用については、ご意見も踏まえ、検討を進めて参ります。

「生涯教育」と「生涯学習」の使い分けについて

【質問】 金ケ崎町では生涯教育のまちを宣言しているからか、「生涯教育」という言葉を使っているが、一般的には「生涯学習」と使うこともある。その違いは何か。「教育」というと、上からの目線という感じがする。町民は積極的に学習活動に取り組んでいる方も多く、町民の目線から、「生涯学習」という言葉に統一したほうが現状に合うように感じる。

【回答】 「生涯学習」は、学習する人たち、つまり住民の方々が自主的に、一生にわたって、学び続けていくというものです。一方、生涯にわたって学ぶ方々の学びの場を、行政が責任を持ってつくり上げていくというのが、「生涯教育」です。

したがって、金ケ崎町では「生涯教育」という言葉を使い、町は学びの環境を整えていくので、豊かな生活を送るために、学び続けていただきたいというのが、町の願いです。この言葉について、どちらがいいかということは、多様な考え方があるところですが、町としては、地域づくりを進めるうえでも、学ぶ環境をしっかり整えるのが行政の責任であるという考え方で、これまで取り組んできましたし、今後もそういった姿勢で取り組むことが、町民の皆さまにとってもよいという考えで、「生涯教育」という言葉を使っています。

懇談会の開催方法について

【意見】 町民懇談会となると、参加しづらい女性や、若者もいると思う。さまざまな意見を持っているが、話す場がないと思うので、若者の懇談会や女性だけの懇談会など、分けて開催していくとよいと思う。

※質問・回答・意見については、要約して記載しておりますのでご了承願います。

お問い合わせ／企画財政課　政策係　☎0197－42－2111（内線 2325）